

ジャパン・スポットライト 2021年9/10月号掲載（2021年9月10日発行）（通巻239号）

英文掲載号 <https://www.jef.or.jp/jspotlight/backnumber/detail/239/>

飯塚信夫 氏（神奈川大学 経済学部 教授）

コラム名：Economic Indicators for Japan

（日本語版）

## 死亡者数が減少に転じた 2020年の日本

### 2007年から、死亡数が出生数を上回る状態続く

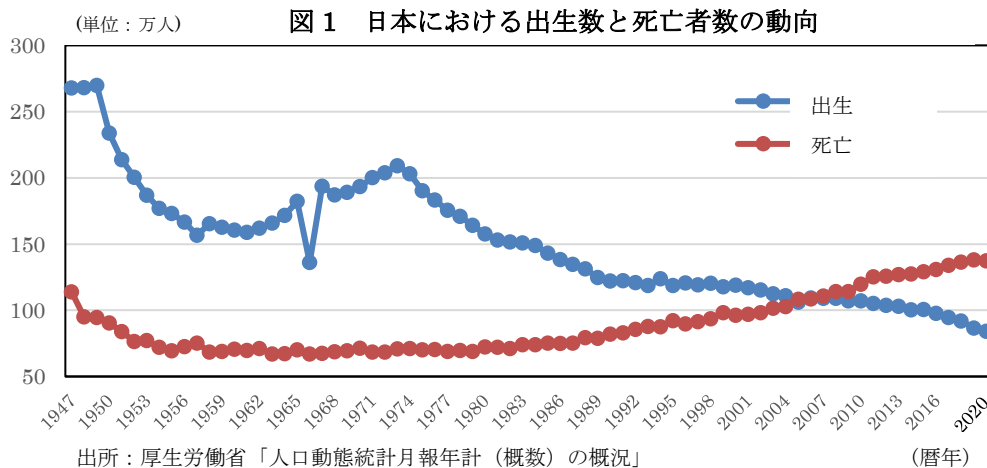
2020年の日本における日本人の出生、死亡の状況が明らかになった。2021年6月に公表された「令和2年（2020）人口動態統計月報年計（概数）の概況」によると、2020年の出生数は84万832人で、前年に比べて2万4407人減少した。死亡数は137万2648人で、前年に比べ8445人減少した。

図1に示したように、日本における日本人の死亡数が出生数を上回る状況は、2007年から続いており、両者の差は年々拡大している。出生数と死亡数の差である自然減数は53万1816人であり、前年に比べて1万5962人増えている。

このうち出生数は、なかなか増加に転じるのが難しい状況にある。過去の少子化傾向を起因として、女性人口（15～49歳の合計）の減少が続いているためだ。2020年は2389万9561人と前年から36万6184人減少している。2020年の合計特殊出生率は1.34と、過去最低であった2005年の1.26よりは高いものの、女性人口の減少による出生数減少を食い止めるまでには至っていない。

これに対し、死亡数は、人口の高齢化を背景に増加傾向にあった。それが、コロナ禍にあった2020年に減少に転じた。近年で死亡数が前年に比べて減少したのは2009年（前年比542人減）、2000年（前年比2万378人減）と限られる。

そこで、今月の本稿では、死亡数が減少に転じた背景について、「人口動態統計月報年計（概数）の概況」のデータをもとに探してみたい。



## 高齢者の死亡数が前年に比べて減少

2020年の死亡数を年齢階層別に確認すると、65歳以上が124万6827人と全体の9割強を占める。この傾向は、前年とは変わらず、死亡数の減少のうち65歳以上は7012人と多くを占めている。

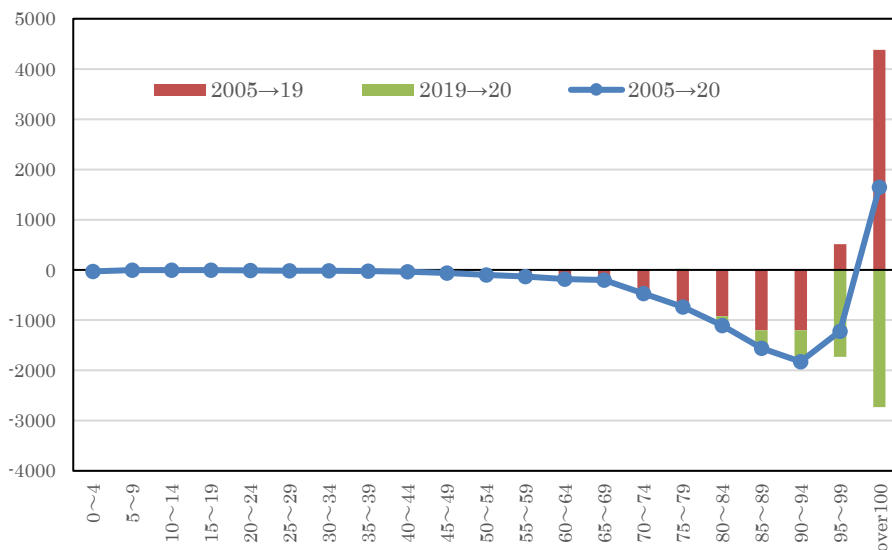
高齢者の方が病気などで亡くなる確率が高い。2020年の人口10万人に対する死亡者数（以下、死亡率）を年齢階層別に見ると、例えば、20～24歳は36.5人、65～69歳は890.8人、80～84歳は4006.3人、90～94歳は1万3342人、100歳以上は3万9420人と年齢が高くなるほど高いことがわかる。しかし、年齢ごとの変化を見ると、2005年に比べて2020年は100歳以上のグループを除いて、すべての年齢階層で死亡率が低下している。特に高齢者での低下幅が大きい（図2）。

さらに、2019年から2020年にかけての変化を見ると、75～79歳を除いて、55歳以上の各年齢層で死亡率が低下している。コロナ禍で、高齢者の死亡が多いことが伝えられてきたが、全体としては死亡率が低下している。人口比率が高い高齢者において死亡率が低下したことが、全体の死亡率および死亡数の減少につながったと考えられる。

一方、10歳から54歳までの各年齢層では死亡率が若干上昇している。10歳未満は低下した。

図2 日本における年齢階層別に見た死亡率の変化

（単位：人口10万人に対する死亡者数）



出所：厚生労働省「人口動態統計月報年計（概数）の概況」

（年齢階層）

## 死因第一位は悪性新生物だが、若年層では自殺が1位に

2020年の死亡数を死因別にみてみよう。第1位は悪性新生物＜腫瘍＞で、37万8356人。死亡率は307.0であった。1981年以来、死因の第1位が続いており、死亡率も上昇トレンドにある（図3）。第2位は心疾患（高血圧性を除く）で20万5518人、死亡率は166.7で

あった。1997年以來、死因の第2位を維持している。第3位は老衰で13万2435人、死亡率は107.5。近年、老衰による死亡率が上昇している。第4位は脳血管疾患で10万2956人、死亡率83.5。1960年代をピークに死亡率は低下傾向にある。

そして、第5位が肺炎で、7万8445人、死亡率は63.6。2019年の死亡率77.2から低下している。新型コロナウイルス感染症は、3466人、死亡率は2.8であった。このように、コロナ禍にあっても、死因のトレンドに大きな変化は確認できなかった。

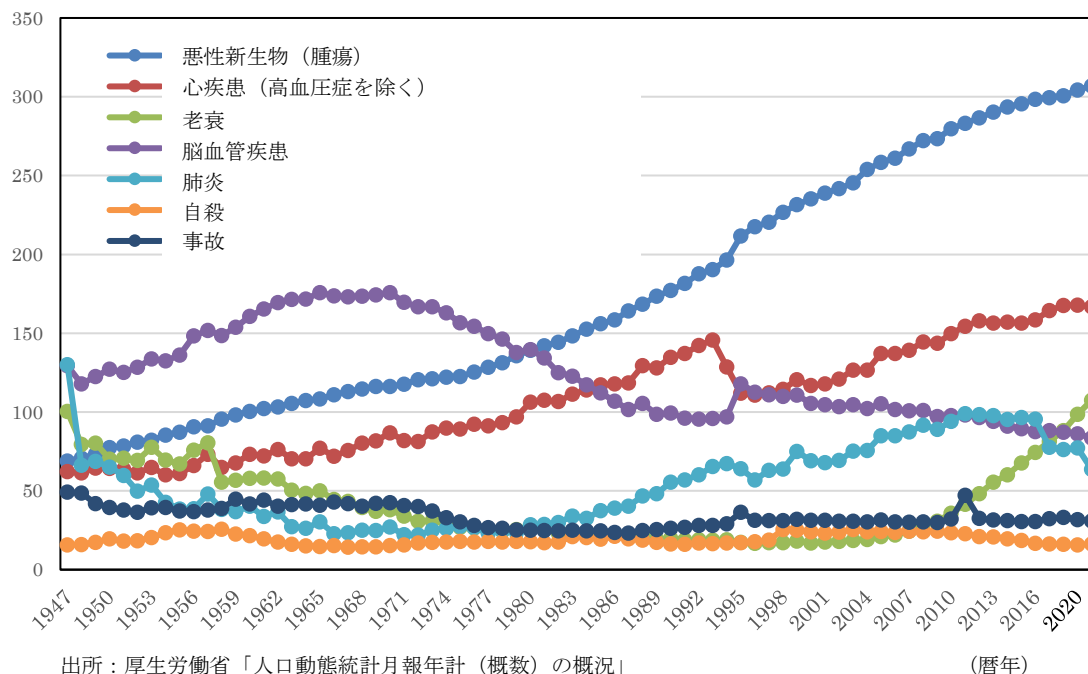
一方、年齢階層別の死因に注目すると、10歳から39歳では自殺が第1位、40～49歳では悪性新生物<腫瘍>について第2位、50～54歳でも第3位に入っている。全年齢層で見ると、2020年の自殺による死亡者数は2万222人であり、2019年の1万9425人から増加している。死亡率も16.4と、2019年の15.7から上昇した。自殺による死亡率の直近のピークはリーマン・ショック翌年の2009年の24.4。そこから低下が続いていたが、2020年は再び上昇に転じた。

自殺には様々な原因があるだろうが、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、経済的な苦境に追い込まれたり、孤立に陥ったりする人が増えていることも原因と考えられる。

日本はまだコロナ禍を抑え込んだとはいえない状況にある。感染拡大を防いでコロナによる死亡者が増えないようにするだけでなく、自殺するまでに追い込まれてしまう人々が増えないようにすることも求められている。

図3 日本における主な死因の傾向

(単位：人口10万人に対する死亡者数)



(注) 本稿は2021年7月28日までに得られたデータをもとに執筆している。

(了)